

「この状況だからこそ味わう“悦び”」

本山布教教化部出版室長 蔵重 宏昭

山口県美祢市みねにある、国定公園で日本最大級のカルスト台地・秋吉台では、毎年2月下旬に『山焼き』がおこなわれます。約600年もの伝統を誇り、1000ヘクタールを超える広大な草原が一斉に燃え上がる様は、数メートルにも炎が生き物のように舞い上がり、観る者すべてを圧倒します。

山焼きが終わると一面は焼け跡で真っ黒な地面と多くの白い石灰岩がコントラストを雄大に醸し出しています。

山焼きから少し時間を置き地面が落ち着いた3月頃から、地元の方たちはいそいそと台地のあちこちを探索します。それは、真っ黒な地面から美しい青色の芽を出している各種山菜がお目当てなのです。

焼け跡から色鮮やかな山菜が元気に伸びている姿を目にすれば、それまで冬の間寒く縮こまっていた身体に、春の元気をもらえるような気になります。山菜摘みの方がたの、遠目にも明るい表情もまたこの時期ならではの、なのです。

ここ数年のコロナ禍により、活動範囲を狭めじっと耐え続けた私たちは、いつしか面白味の無い変わらぬ日常であるかのように思う時があります。しかし、奔放に振舞うことなくじっとしていたからこそ、細やかな発見やふとした気づきに悦びを感じることも増えてきたのではないのでしょうか、春先の足元に芽吹く新たな命に心躍るように。

2月中旬から今年も新到和尚さんたちが、志を胸に緊張の面持ちで大本山總持寺に上山しています。恐らくしばらくはそれまでの生活とは打って変わるので、窮屈で不自由な思いをすることと思います。しかし、僧堂きくの規矩(規則)に従い丁寧に行じてゆけば、辛さではなく、修行するからこそ気づき悟る、といった良質の悦びをさまざまに感じるのです。そうした良質の悦びをほうえつ“法悦”といいます。この悦びこそ修行を継続する力となるのです。

今の状況下でも丁寧な日送りをきちんと行えば、きっと大切な悦びに出会うはず、共に精進して参りましょう。